

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 8 月 11 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	川口ゆり

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
妙高高原、新潟県
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
笹ヶ峰実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 8 月 1 日 ~ 平成 26 年 8 月 4 日 (4 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
静岡大学准教授 杉山茂先生
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
日程 8月1日：到着、周囲の散策 2日：涸沢トレッキング、地図読み・ロープワーク講習 3日：火打山登山 4日：ビバーク実習、清掃
フィールド調査を行ううえで最小限のものしかなくてもやっていけたり、GPS が使えなくてもコンパスと地図を手に進んでいけたりというようなサバイバル技術はかせない。今回の笹ヶ峰実習はそういった手技を体得することがねらいであった。 笹ヶ峰の京大ヒュッテには2年前に一度訪れたことがあり、楽しみにしていた。 この実習の最大のイベントは火打山へ登ることである。火打山は標高 2462m の山だ。パーティーの他のメンバーは登山を何度も経験している学生も多かったが、私は今まで本格的な登山は行ったことがなかった。そのため頂上まで登ることに若干の不安があった。しかし結論から言えば、ズボンのすそは泥まみれになりとてもスマートな登り方とは言えなかったが、怪我無く頂上まで登って降りることができた。メンバーが気遣ってくれた部分もあるだろうが、ペースを乱すことも疲れ切ってしまうこともなく登り切ることができたのは満足であった。登山中も杉山先生から、燃えやすい樹皮を持つ樹や食べられる実について教えて頂いたり、岩場での足の掛け方を教えて頂いたりしてたくさんのことを学んだ。登山中は晴れたり曇ったり雨が降ったりと非常に天気が変わりやすく、足を止めると一気に体温が下がり、こまめに体温調節をする大切さも学んだ。山頂付近は急な斜面が続いたが映画のワンシーンのように美しい景色が広がり、カメラのバッテリーの予備を持参していないことを悔やんだ。さらに進んだ山頂では隣の焼山から飛行機のような音が聞こえるとともに煙が上がっているのも見え、いつ噴火してもおかしくないように感じた。 火打登山以外でも様々な知識を体で学んだ。涸沢でのトレッキングではどのようなランドマークを使用するのが良いのかということも学んだ。私は方向音痴だが、行きに景色を覚える際には進路方向の景色ではなく反対側の景色を覚えるのだと聞き、なるほどと思った。地図読み・ロープワーク実習も非常に実用的であり、特にロープワークは活用する機会が多そうであった。ビバーク実習では簡易テントがいかに便利であるかが分かった。テントとしての使い方だけでなく、雪原や砂漠で水を得るのに使ったり、けが人や荷物を運ぶのに使ったり想像力次第でどのような用途にも使えることに驚いた。杉山先生の指導のおかげで実習中の料理も非常に美味しく、最も暑い時期にもかかわらず冷涼な気候を楽しんだ。思えば2年前は例えば蛾だらけの浴室が少し気になってしまったが今回は全く気にならず、そういった2年間での自分の変化も面白かった。また、実習中にメンバーとの会話を楽しんだのも非常に良い思い出である。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



火打山山頂へ至るまでにある「天狗の庭」



山頂付近でつかの間の晴れ間に恵まれる



火打山の岩場



痛いほどに冷たい黒沢



最後の夜のキャンプファイヤー



ビバーク実習

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



調理風景



蝶



蝶

6. その他 (特記事項など)

本実習への参加は PWS の支援を受けて行いました。また、杉山先生には大変お世話になりました。ここにお礼申し上げます。